

物流情報管理システム

今日、低成長経済が定着して、企業は利潤を得るためにあらゆる面での合理化を再検討しつつあるが、とりわけ物流管理面の合理化及び物流コスト低減が重視され、物流情報システムの確立が急務となっている。

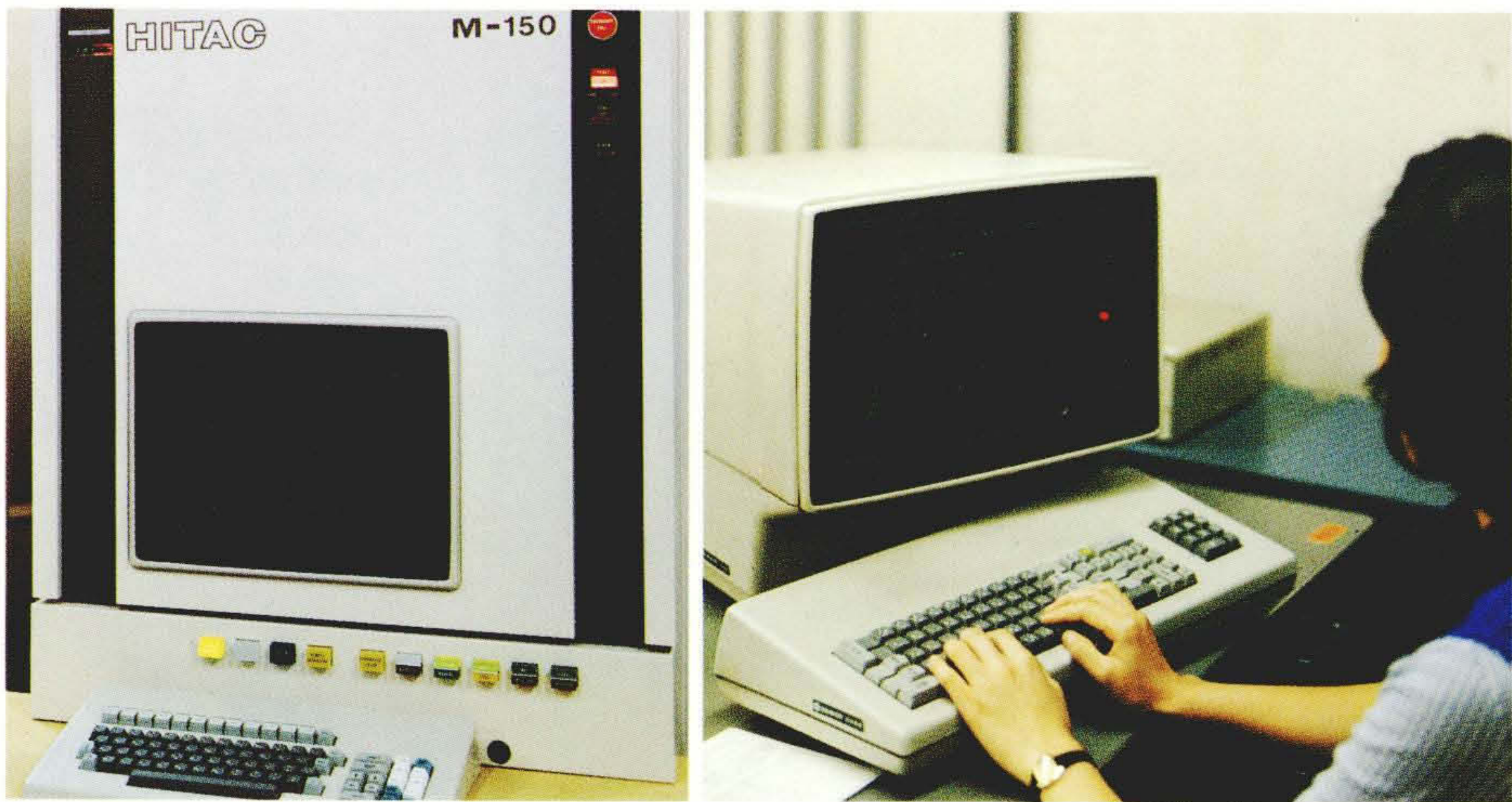
この要求にこたえて、汎用物流情報管理システム(Distribution Information and Control System:以下、DICSと略す)が開発されている。

DICSは、計画(マーケティング解析、汎用予測、物流最適化、流通チャネル構造解析及び需給計画)、管理(物流会計、在庫計画)、実行(配送計画、需給調整及びオーダエントリシステム(Order Entry System:以下、OESと略す))の三つのレベルで構成されている。

実行レベルの OES の建設に当たっては、受益部門のニーズに適したシステムを短期間に、しかも高信頼性を保持して実現するソフトウェアが要求され、これにこたえて開発された汎用パッケージが、DICS/OES である。

DICS/OES は、オーダエントリ制御モジュール(Order Entry Control Module:以下、OCMと略す)とオーダエントリ処理モジュール(Order Entry Processing Module:以下、OEMと略す)から構成される。

DICS/OCMは、OESで扱われる情



報の制御を行ない、システム形態、ネットワーク構成及び使用言語に合わせてサブモジュールを選択し組み合わせ、最適な実行モジュールを作成する。また、OESの運用で必要となる業務処理の制御、問合せなどのコマンド群、更にデータの収集機能、帳票類の自動配信機能をサポートしている。

DICS/OEM は、受注、在庫、出荷配送、倉庫、顧客及び売掛回収の処理機能から構成される。各機能は日々の受注から出荷までの販売物流活動に関連する受注、入庫及び出庫のデータにより動作し、DICS/OEM の管理する得意先、在庫、受注残などのデータベースを参照、更新する。

入力データに対応した業務処理は、部品化されたエレメントとして用意されている。業務処理プログラム作成に

当たっては、このエレメントを選択するとともに、管理基準を与えることにより、ユーザー固有の業務処理モジュールが作成できる。

DICS/OES は、ユーザー固有のネットワーク特性、業務処理特性及び業務管理基準を定義シートに記入することにより、短期間で信頼性の高いOESの建設が可能となり、大幅な工数削減が実現できる。

このシステムは、日東紡績株式会社、東洋醸造株式会社で適用され、従来の建設に比べて50%以上の工数が削減され、このほか既に20社以上で採用されている。

今後、現在開発中の管理レベルのモジュールと連結することにより、物流情報管理システムの確立がなされ、更に幅広い活用が期待できる。

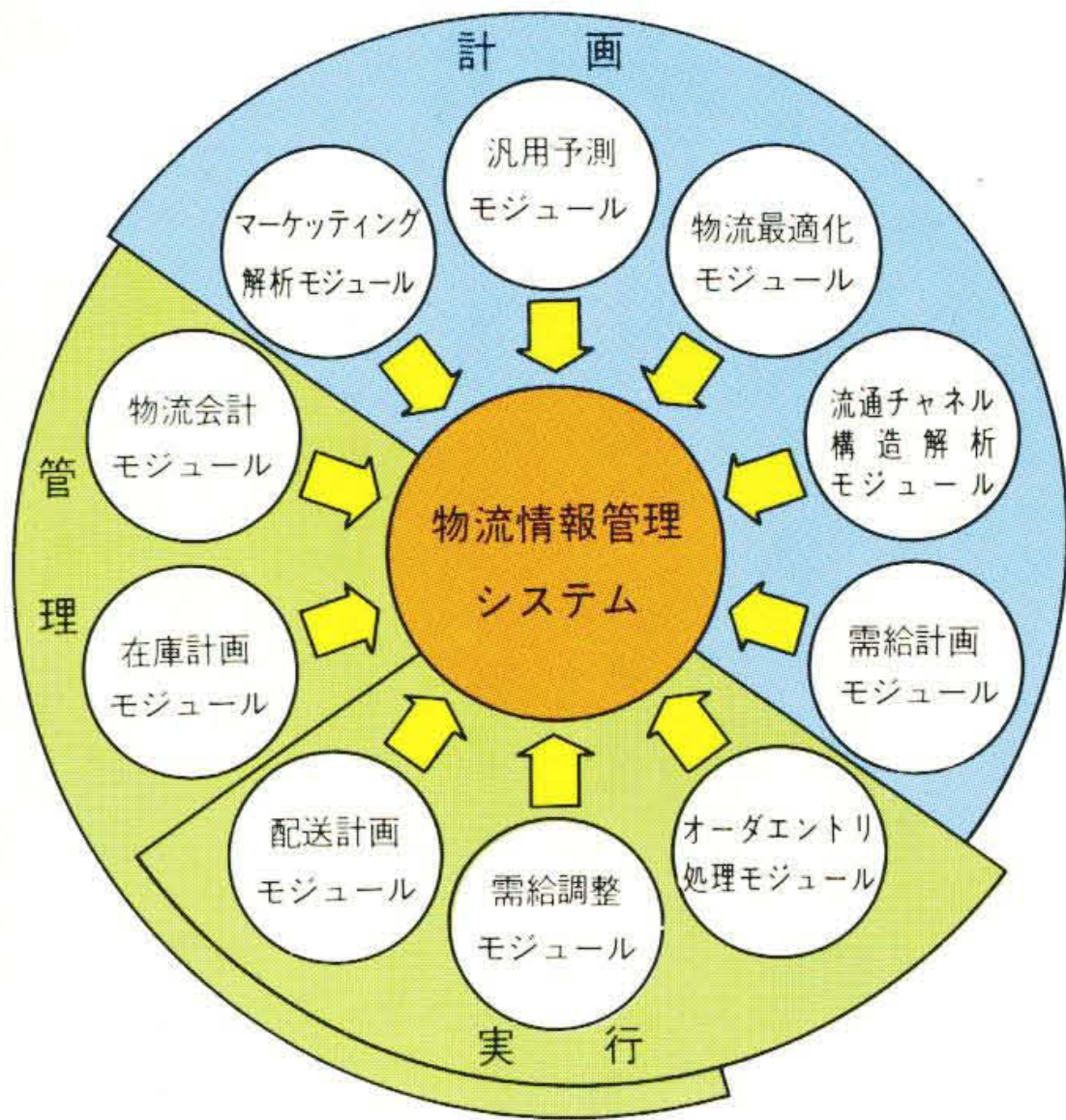


図1 DICS構成図

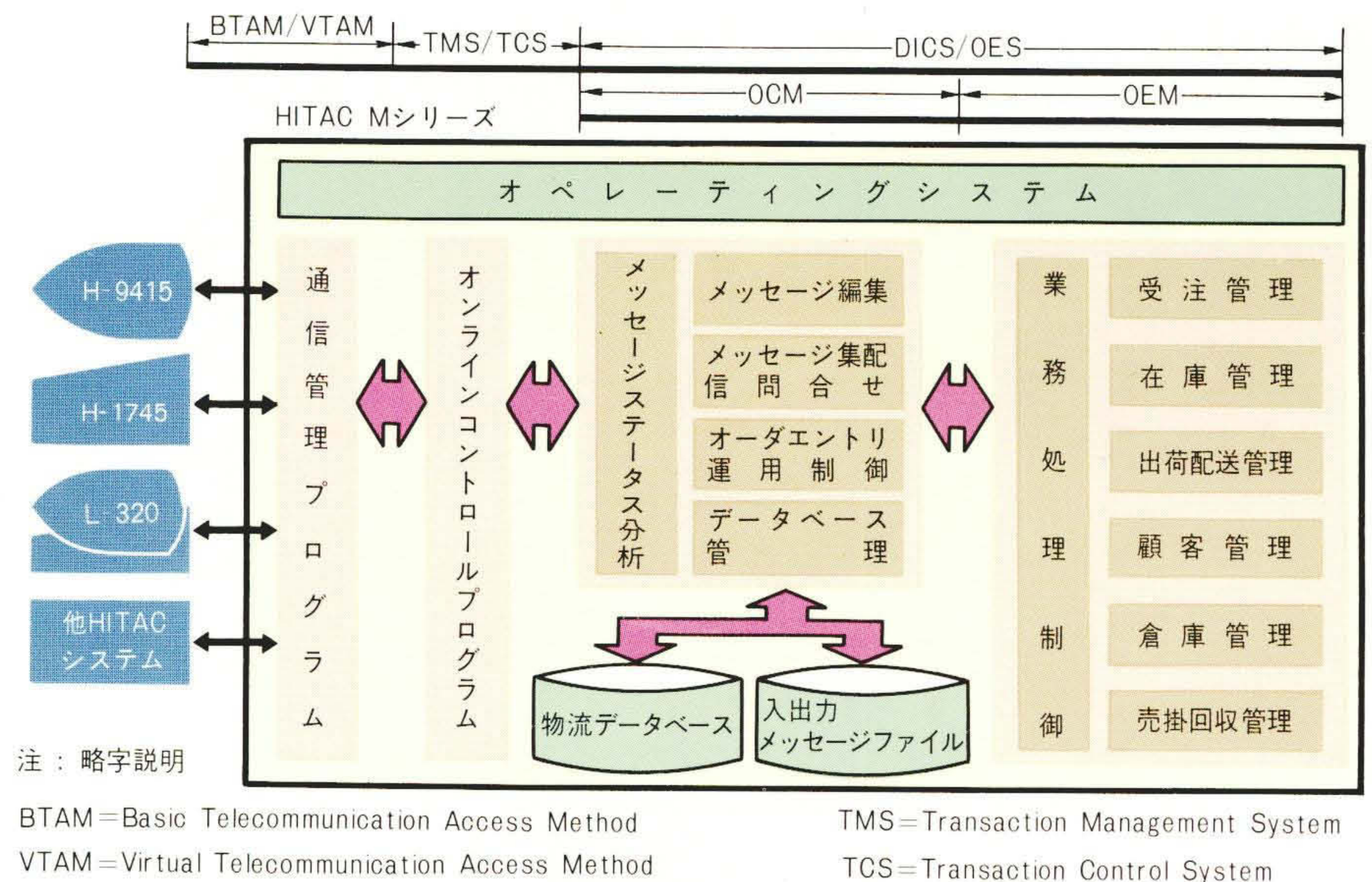


図2 DICS/OES構成図